

第1回たまの未来会議の開催状況

1 目的

- 新たな総合計画の骨子を作成する際の参考とするため、3つのグループに分かれ、玉野市の“良い所”、“課題”、“必要な取組”及び“将来像（キャッチフレーズ）”を検討する。

2 開催状況

開催場所：玉野市立図書館・中央公民館 第3研修室・第4研修室

開催時期：7月22日（金）14:00～16:00

参加者：14名（うち、市職員4名）

3 会議の進め方

- 3つのグループに分かれ、グループごとに与えられた2つのテーマ（政策分野）について、“課題”、“必要な取組”、“理想的な姿”を検討した上で、テーマごとの“キャッチフレーズ”を決定し、中間発表で他のグループに共有。
- 自分のグループでの検討内容、他グループの発表内容を踏まえて、各グループで“玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）”を決定し、最終発表で他のグループにも共有。

ワーク1 検討テーマごとの玉野市の現状を考えよう [個人ワーク]

- 玉野市の良いところ、課題、必要な取組などを付箋に記入。

ワーク2 検討テーマごとの理想的な姿を話し合おう [グループワーク]

- 付箋の内容をグループ内で共有し、テーマごとのキャッチフレーズを検討。

ワーク3 中間発表

- 各グループが考えた、テーマごとの課題、必要な取組、キャッチフレーズを発表。

ワーク4 玉野市のまちづくり全体の将来像を話し合おう [グループワーク]

- 各グループの発表内容を踏まえて、玉野市まちづくりのキャッチフレーズを検討。

ワーク5 最終発表

- 各グループが考えた、キャッチフレーズやそれに込めた思いを発表。

各グループの検討テーマ

A グループ	結婚・出産・子育て
	安全・安心
B グループ	産業・観光
	健康・福祉
C グループ	教育・文化・スポーツ
	市民参加

4 会議の概要

(1) 玉野市の良いところ (A・B・C グループ)

- ・ 自然が多い。
- ・ 天気が良い。
- ・ 都会過ぎず、田舎過ぎない、心地よい住環境。
- ・ 岡山・倉敷、直島へのアクセスが良い。
- ・ 中学校まで医療費無料など、市による子育てサポートが充実している。
- ・ お年寄りが多いので、ボランティアによる子育てサポートが充実している。
- ・ 待機児童ゼロ。
- ・ 災害が少ない。大きな災害がほとんどない。
- ・ 公園の数が多い。
- ・ 観光資源が豊富。
- ・ 海が近い、景色がきれい、写真撮影を目的に玉野に来る人もいる。
- ・ 車があれば楽に市内を回れるコンパクトなまち。
- ・ 宇野港周辺にはオシャレな店が多く、にぎわっている。
- ・ 瀬戸内国際芸術祭の会場の1つ。
- ・ 介護サービスが充実している。
- ・ 昔ながらのものと、新しいものが良い具合に入り混じっている。

(2) 中間発表

A グループ

■結婚・出産・子育て

キャッチフレーズ
安心して子育てできるまち
課題
・ 子育て世代の人口が減少している。 ・ 小児科の数が少ない、産婦人科がない。 ・ 公園の数は多いが、管理が行き届いていないため、安心して子どもを遊ばせることができない。
理想的な姿・必要な取組
・ 公園の管理をしっかり行い、安心して子どもを遊ばせることができる。 ・ 小児科や産婦人科がアクセスしやすい場所にあつて、安心して子育てができる。 ・ 子どもも大人も、みんなが暮らしやすいまちになっている。

■安全・安心

キャッチフレーズ
豊かな自然を未来につなぐまち
課題
・ 災害が少ないため、防災意識が低い。 ・ 管理者の高齢化により、公園や空き地が適切に管理されていない。 ・ 空き地や空き家が増えている。
理想的な姿・必要な取組
・ 市民全体の防災意識が高い。 ・ 空き家の解体に関するお手伝い、助成金により、空き地や空き家の問題が解消に向かっている。 ・ 行政にだけ頼るのではなく、みんなで安全・安心のまちをつくるという意識を持っている。 ・ 市が必要十分なサポートをしている。

B グループ

■産業・観光

キャッチフレーズ
来て見て住みたい にぎわいあふれる玉野
課題
・ 車がないと、観光地間の移動が難しい。 ・ 地域資源を活かし切れず、瀬戸内の島々への通過点になっている。 ・ 市内の企業・事業者、観光地の PR が十分でない。
理想的な姿・必要な取組
・ 移動手段が確保され、不便なく観光地間を移動できる。 ・ SNS 等での情報発信によって、市内外の人が産業や観光を含んだ玉野の魅力を知っている。 ・ 産業・観光の魅力が十分に磨き上げられることで、玉野が観光の目的地になって、それがきっかけとなり、玉野に住みたい人が増えている。

■健康・福祉

キャッチフレーズ
大人から子どもまで いきいきと暮らし よく分かる玉野
課題
・ 各病院・診療所の特色や良し悪しが分からない。 ・ 小児科が少ない。 ・ 介護サービスの内容や利用方法が分からない。
理想的な姿・必要な取組
・ 介護サービスの見学会や、高齢者と子どもの交流会などにより、高齢者は生きがいを得て、保護者は介護サービスの内容を知ることができる。 ・ 医療や介護情報が簡単に入手できて、誰でも利用したいと思ったときに、気軽に各種サービスを利用できる。

C グループ

■教育・文化・スポーツ

キャッチフレーズ
玉野と言えば“玉野っ子”
課題
・ 少子化の進行で、児童数・生徒数が減っている。 ・ 教育に特色がない。 ・ 地域によっては、習い事ができない。 ・ 玉野といえは“○○”という文化がない。また、これからブランディングするにしても、他と差別化された特徴的な歴史・文化資源がない。
理想的な姿・必要な取組
・ 英語、ICT など、他自治体にはない特化型の教育が充実している。 ・ 児童・生徒数が少ないからこそできる、魅力的で特色のある教育が充実している。 ・ 市外の人にも、玉野は教育の質が高いというイメージが定着していて、教育環境を目標に、転入者が増加している。

■市民参加

キャッチフレーズ
みんなで作る またまたたまの
課題
・ 少子高齢化の進行により、参加できる人の母数が減少している。 ・ 年代にあった情報発信が不十分で、市からの情報が行き届いていない。
理想的な姿・必要な取組
・ 若い人には SNS、年配の人には広報誌など、各年代に最適な手法で十分な情報が発信されている。 ・ 民間と行政が協働で取り組めるイベントが充実している。 ・ 老若男女、小さい子どもからお年寄りまで、誰でも気軽に参加でき、みんなで一緒にまちづくりを進めている。

(3) 最終発表

A グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）
みんなで作る 大人も子供も住みやすい玉野
キャッチフレーズに込めた思い
・ 自然が豊かというのは、各グループ共通の思いと感じた。 ・ 自然が豊かで、公園も多く、住みやすいまちづくりに向けたポテンシャルが高い。 ・ こうしたポテンシャルを活かしながら、行政だけでなく、市民みんなで、老若男女みんなが住みやすいまちづくりを進めている。

B グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）
皆がいきいきとくらせる 自然あふれるみなとまち玉野
キャッチフレーズに込めた思い
・ 各グループ共通して“自然の豊かさ”を玉野市の良いところと認識していると感じた。 ・ 重視したのは、子どもから高齢者まで、住みやすいまちづくり。 ・ これを“皆がいきいきとくらせる”と表現した。

C グループ

玉野市のまちづくり全体の将来像（キャッチフレーズ）
やっぱり、たまの ～住んでみな、トブゾ！！～
キャッチフレーズに込めた思い
・ 他の自治体とは差別化された特色あるまちづくりを進めたい。 ・ 若い人は、進学や就職で外に住んでみて“やっぱり玉野がいいなあ”と、年配の人は、長年、住み続けてみて、“やっぱり玉野に住み続けてよかったなあ”と、玉野の良さや住むことの喜びを実感できるまちづくりを進める。